

県立高校改革推進プラン

第2次実施プログラム（案）

令和7年5月26日

千葉県教育委員会

目 次

第2次実施プログラムについて	1
----------------	---

第2次実施プログラムが目指す方向性	2
-------------------	---

I 魅力ある県立高校づくりの推進	3
------------------	---

1 普通科及び普通系専門学科・コース	3
（1）地域社会に関する学びの導入	

2 職業系専門学科・コース	4
（1）水産教育の充実	
（2）工業教育の充実	

3 総合学科	6
（1）総合学科の設置	

4 社会のニーズに対応した教育	7
（1）学びの多様化学校（コース制）の設置	
（2）単位制の導入	
（3）フレキシブルスクール（定時制の課程と通信制の課程の併置校）の設置	

II 県立高校の適正規模・適正配置	10
-------------------	----

1 全日制高校・定時制高校・通信制高校の配置（統合）	10
2 全日制高校の配置（地域連携協働校の指定）	12

《参考》 再編後の学校数

第2次実施プログラムについて

県教育委員会では、令和4年度以降の県立高校改革を進めるため、令和4年3月に新たな計画となる「県立高校改革推進プラン」（以下「プラン」という。）を策定しました。

本プランは、令和4年度（2022年度）を初年度として、10年後の令和13年度（2031年度）を目標年次とするもので、実施に当たっては、具体計画（実施プログラム）に基づき推進することを基本としており、令和4年10月には最初の実施プログラムとなる「第1次実施プログラム」を策定し、12項目18校の再編に係る内容を示すとともに、都市部および県南部や東部における今後の統合の方向性を示しました。

近年では、不登校生徒や日本語を母語としない生徒の更なる増加等、生徒の多様化が一層進むとともに、人口の減少や雇用のミスマッチ等を背景に、地域産業を支える人材不足の深刻化など、地域社会が抱える喫緊の課題への対応がより強く求められています。こうした中で、県教育委員会では、令和7年3月に「第4期千葉県教育振興基本計画」を策定し、今後の千葉県教育の目指す姿とそれを実現するための施策を取りまとめました。

同計画に基づくこれらの施策を踏まえるとともに、県教育委員会はこれまで、各地区の県立高校のあり方を伺う「地域協議会」や、適正規模に満たない学校等において、今後の学校のあり方を伺う「地域フォーラム」を実施するなど、地域関係者や教育関係者等からの御意見も伺いながら、具体的な個々の改革内容について検討を進めてきました。このたび、今後実施すべき高校改革のうち、検討を終えた内容を「第2次実施プログラム」として取りまとめました。

現在、国で検討している高等学校等就学支援金の制度改正の動きがある中で、公立高校の果たすべき役割を踏まえた魅力ある県立高校づくりがますます重要になっています。本プログラムでは、都市部の小規模校の統合や理数科を設置する進学指導重点校の充実、産業と連携した人材の育成、多様化する教育ニーズへの対応等を改革の柱として、9項目15校について教育内容と施設・設備の充実を図ることとしています。

なお、今後も社会の変化に対応し、生徒それぞれの豊かな学びを支え、地域のニーズに応える、活力と魅力ある県立高校づくりを目指し、プランに基づき、実施すべき高校改革について引き続き検討を進め、随時公表するとともに、その都度パブリックコメントなどを実施して、幅広く御意見をいただく予定としております。

第2次実施プログラムが目指す方向性

県南部や東部の小規模校の活性化と地域を支える人材の育成

県南部や東部の小規模校を地域連携協働校に指定し、地域ならではの資源を活用した教育活動を展開します。さらに、近隣の高校を協力校として、連携した教育活動を展開します。

水産系高校の学びの魅力化

令和6年度に実施した「千葉県水産系高校あり方検討会議」の意見を踏まえ、各高校が所在する地域の特性を生かし、水産教育の更なる充実を図ります。また、実習船や専攻科のあり方を見直すとともに、遠隔地からの生徒募集に係る受入体制を検討します。

工業系学科の学びの魅力化

生徒や社会の多様なニーズに対応し、卒業後の進路を見据えた学びを選択できるよう、学科名の変更を含む工業に関する学科の再構成を行います。また、地元企業と連携して学ぶことにより、実践的なスキルを習得するデュアルシステムを導入します。

少子化への対応と多様なニーズに応える新しい学校づくり

少子化に対応するため、都市部にある小規模の全日制普通科高校を統合し、県立高校の適正規模化を進めます。また、統合校では、施設・設備の改修を進めるとともに、総合学科、学びの多様化学校、新しいタイプの定時制や通信制の課程等を設置するなど、学びの魅力化を推進します。

進学指導重点校の更なる充実

生徒の学習ニーズに応じた多様な選択科目の設置を通じ、進学実績の更なる向上を図るため、単位制を導入します。また、先進企業や研究機関、大学等との連携を通じて、理数教育の充実を図ります。

I 魅力ある県立高校づくりの推進

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 地域社会に関する学びの導入

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
多 古	9 年度	普通科 園芸科	・ 地域連携協働校の指定 ・ 地域社会に関する学びを導入
市 原	9 年度	普通科 園芸科	・ 地域連携協働校の指定 ・ 地域社会に関する学びを導入

【再編の内容】

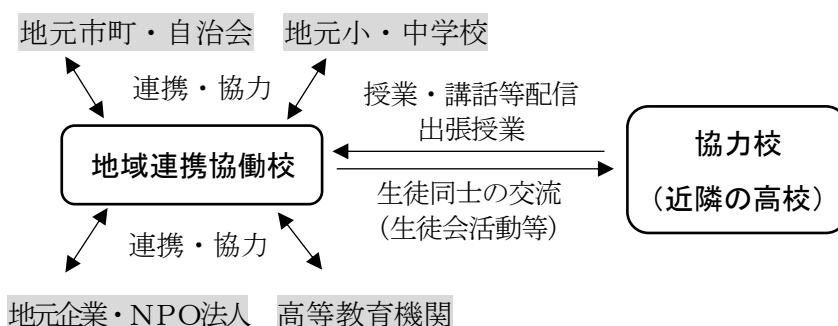
- ・ 多古高校と市原高校を地域連携協働校に指定し、近隣の高校を協力校として、連携した教育活動を展開します（地域連携協働校の指定については12ページに記載）。
- ・ 地域ならではの資源を活用した教育活動を展開するため、両校に地域社会に関する学び※を導入します。

【教育内容等】

- ・ 多古高校では、成田空港に近接する立地を生かし、グランドハンドリング（地上支援業務）や保安検査場業務等、空港関連の人材育成を目指し、関係部局と連携した探究的な学びを実践します。
- ・ 市原高校では、地域の歴史や文化、産業を学ぶ「市原地域探究」を引き続き実施するなど、地元市と連携しながら、地域で活躍する人材の育成を図ります。

※ 地域社会に関する学び

地域連携協働校に指定した学校において、「総合的な探究の時間」等を活用し、地域を探究するほか、地域の方を講師として招くなど、将来、地域の担い手としてその発展に尽力・貢献する人材を育成する。



2 職業系専門学科・コース

(1) 水産教育の充実

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
銚子商業	9 年度	商業科 情報処理科 海洋科	・海洋科に洋上風力発電に関する 学びを導入
大 原	9 年度	総合学科 〔普通系列 園芸系列 海洋科学系列 生活福祉系列〕	・海洋科学系列に栽培漁業やマリン レジャーに関する学びの充実
館山総合	9 年度	工業科 商業科 家政科 海洋科	・海洋科に沿岸漁業に関する学びを 導入（コースの再編を含む） ・専攻科を廃止（令和12年度末）

【再編の内容】

- ・令和6年度に実施した「千葉県水産系高校あり方検討会議」の意見を踏まえ、各高校が所在する地域の特性を生かし、水産教育の更なる充実を図ります。
- ・プランでは、「水産業や海運業に必要な海技従事者の養成に向け、実習船の活用と専攻科との連携を強化します」としていましたが、同会議の意見を受けて、実習船や専攻科のあり方を見直すとともに、遠隔地からの生徒募集に係る受入体制を検討します。
- ・生徒受入れの体制づくりについては、まず水産系高校で実施し、課題や効果を検証した上で、他の学科等への拡大や全国からの生徒募集も含めて検討していきます。

【教育内容等】

- ・銚子商業高校海洋科に、関連企業や漁協等と連携した、洋上風力発電に関する学びを導入します。
- ・大原高校総合学科海洋科学系列に、関連企業や漁協等と連携した、栽培漁業やマリンレジャーに関する学びの更なる充実を図ります。
- ・館山総合高校海洋科に、関連企業や漁協等と連携した、沿岸漁業に関する学びを導入するほか、コースの再編についても検討します。
- ・専攻科を廃止し、5級海技士資格取得に必要な実践実習に適した実習船への転換を図るとともに、地元市等との連携のもと、遠隔地からの生徒募集に係る受入体制について検討を行います。

(2) 工業教育の充実

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
東総工業	9 年度	工業に関する学科	・ 工業に関する学科を再構成
茂原樟陽	9 年度	工業に関する学科 農業に関する学科	・ 工業に関する学科を再構成

【再編の内容】

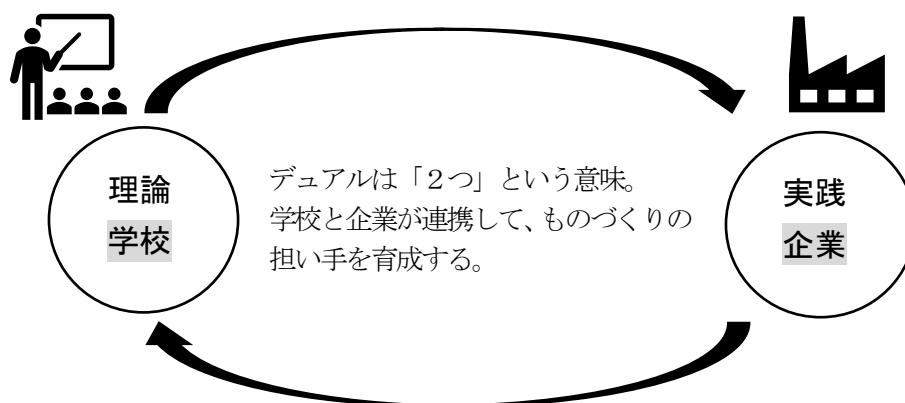
- ・ 生徒の多様な興味や関心、能力、適性等に対応し、卒業後の進路を見据えた学びを選択できるよう、わかりやすい学科名への変更を含む**工業に関する学科**の再構成を行います。
- ・ 地元企業と連携した実践的な学びを取り入れ、キャリア教育の充実を図ります。

【教育内容等】

- ・ **東総工業高校**では、現状の 4 学科（電子機械科・電気科・情報技術科・建設科）から 3 学科への再構成を図り、実習設備の更新も含めて、学びの魅力化を推進します。
- ・ **茂原樟陽高校**では、現状の 3 学科（電子機械科・電気科・環境化学科）から 2 学科への再構成を図り、実習設備の更新も含めて、学びの魅力化を推進します。
- ・ 県内の工業系高校では、地元企業と連携して学ぶことにより、実践的なスキルを習得するデュアルシステム※を導入します。

※ デュアルシステム

学校と企業がともに生徒を育成する職業教育で、インターンシップよりも長い期間で就業訓練を行うことで、実践的な技能・技術を身に付けることができる。卒業後に就業訓練を行った企業への就業も可能。



3 総合学科

(1) 総合学科の設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
船橋豊富 船 橋 北	10年度	総合学科	・普通科を改編し総合学科を設置 ・福祉コース、情報コースを福祉系列、情報系列に再構成

【再編の内容】

- ・船橋豊富高校と船橋北高校の統合校に、両校の学びを継承し、社会のニーズに対応する新たな学びを導入するため、**総合学科**※を設置します。
- ・総合学科の特色を生かし、生徒の興味や関心、進路に応じた多様な選択科目を設置するなど教育内容を更に充実させるとともに、「産業社会と人間」や特色ある系列の学び等を通じて、キャリア教育を推進します。

【教育内容等】

- ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、1年次から、将来の職業選択への意識づけを図り、進学や就職などの進路選択が円滑に行われるよう、少人数指導や課題解決型学習を基本とした、計画的なキャリア教育を実施します。
- ・福祉や情報等、両校の学びを継承した系列を設置するとともに、社会のニーズや生徒の興味・関心等に応じて、プログラミングやeスポーツ等、従来の教科の枠にとらわれない特色ある学びを導入します。

＜系列設置例＞（系列名は仮称）

「ウェルビーイング系列」… 福祉コースの継承と未来型福祉に関する学び

「情報クリエイター系列」… プログラミングやeスポーツ等に関する学び

「スポーツ科学系列」… 健康や体力づくりに関する学び

「一般教養系列」… 実用英語検定等の資格取得や大学等への進学に対応

※ 総合学科

普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒自らの興味や関心、進路希望に応じて、主体的に科目を選択して学習することができる学科。「産業社会と人間」及び専門教科・科目を合わせて25単位以上履修し、将来の職業選択を視野に入れた学習を行う。

1年次においては、職業観を育成する「産業社会と人間」を軸にキャリア教育を推進する。2年次以降は、生徒の興味や関心、適性、進路希望に合わせて科目選択できるよう、相互に関連の深い科目を「系列」として設定する。

4 社会のニーズに対応した教育

(1) 学びの多様化学校（コース制）の設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
八千代東 八千代西	10年度	普通科	・学びの多様化学校（コース制）を 設置

【再編の内容】

- ・令和7年3月に県教育委員会が策定した「第4期千葉県教育振興基本計画」において、施策全体を貫く視点の一つに、一人一人のウェルビーイングの実現を掲げました。このことを踏まえ、多様性あふれる子どもたちの、誰一人取り残されない学びの保障に向けて、八千代東高校と八千代西高校の統合校に、県内公立高校初の**学びの多様化学校※（コース制）**を設置します。

【教育内容等】

- ・**単位制**を導入し、少人数による習熟度別学習や協働的な学び、対人スキルを学ぶソーシャルスキルトレーニング等、個別最適な学びを展開します（単位制については8ページに記載）。
- ・始業時間にゆとりをもたせるなど通学時間帯に配慮し、特色ある教科・科目の新設や授業時数の組み替え等による特別の教育課程を編成します。
- ・生徒が自宅を含む教室外の場所でも授業を受けられるようICT環境を整備し、遠隔教育の活用による継続した学びを保障します。
- ・複数担任制、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置のほか、福祉や医療の立場からのサポートの充実を図るため、医療機関や教育支援センター等の関係機関と連携し、個に応じたきめ細かな教育相談体制を整備します。

※ 学びの多様化学校

不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要がある場合、文部科学大臣が、学校教育法施行規則に基づき学校を指定し、特定の学校において教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成して教育を実施することができる学校で、国では分教室型も含め、全国で300校の設置を目指している。

令和6年度時点では、全国で公立学校21校、私立学校14校で設置され、そのうち高校は6校（全て私立学校）である。令和7年度に、福岡県が全国で初めて公立高校に設置した。

(2) 単位制の導入

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
八千代東 八千代西 (再 掲)	10年度	普通科	・ 単位制を導入
柏	9年度	普通科 理数科	・ 単位制を導入
佐 原	9年度	普通科 理数科	・ 単位制を導入

【再編の内容】

- ・ 八千代東高校と八千代西高校の統合校には、卒業後の適切なキャリア形成を図るため、また、柏高校及び佐原高校に進学指導重点校^{※1}としての学びの充実を図るため、単位制^{※2}を導入します。
- ・ 単位制の特性を生かし、一人一人の生徒の興味や関心、進路希望に応じた学習を進めることで、個性の伸長を図り、幅広い進路選択を可能とします。
- ・ 2学期制とし、学期ごとの単位認定や、自分の興味や関心、適性、進路希望等に応じて履修科目を選択できるよう弾力的な時間割編成を行います。

【教育内容等】

- ・ 八千代東高校の運動系部活動が盛んな伝統と、八千代西高校のきめ細かな学習指導の特色を踏まえつつ、将来のキャリア形成を図る多様な学びを展開します。
- ・ 進学指導重点校の柏高校と佐原高校では、生徒の学習ニーズに応じた多様な選択科目の設置し、進学実績の更なる向上を図ります。また、先進企業や研究機関、大学等の連携によるフィールドワークやワークショップ等の実践を通じ、探究学習を軸とした理数教育の更なる充実に取り組みます。

※1 進学指導重点校

千葉県教育委員会が指定する、進学実績の向上に重点を置く高校であり、県内の各学区に設置している。指定校では、組織的で計画的な進学指導を推進し、生徒一人一人の学力向上を図り、生徒の目標達成を支援する教育活動を展開している。教員の人事配置においては公募制を導入し、進学指導等に意欲ある教員を積極的に配置している。

なお、現在、千葉東高校、船橋高校、柏高校、佐倉高校、佐原高校、匝瑳高校、成東高校、長生高校、安房高校、木更津高校の10校を指定している。

※2 単位制

学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる学校。多様な選択科目の中から自分の興味や関心等に応じた科目を選択し、学習できるほか、学年の区分がないため、自分のペースで学習に取り組むことが可能。

(3) フレキシブルスクール（定時制の課程と通信制の課程の併置校）の設置

対象高校	実施年度	設置課程・学科	備 考
沼 南 沼南高柳	10年度	定時制の課程 普通科 通信制の課程 普通科	・フレキシブルスクール（定時制の課程と通信制の課程の併置校）の設置

【再編の内容】

- ・沼南高校と沼南高柳高校の統合校には、定時制の課程と通信制の課程を併置することで、生徒一人一人の生活スタイルや学習ニーズに合わせて学ぶことができるフレキシブルスクールを設置します。
- ・**昼間二部制定時制の課程**（午前部・午後部）※¹を設置するとともに、オンラインに特化した**通信制の課程**※²を併置します。

【教育内容等】

- ・定時制の課程では、県内公立高校初の昼間二部制定時制の課程（午前部・午後部）を設置し、1日4時限の授業を基本とした教育課程を展開します。
- ・不登校経験がある生徒や日本語を母語としない生徒等、多様なニーズに応じた教育課程を編成するなど、個別最適な学びを推進します。
- ・定時制の課程では他部履修や定通併修を活用し、3年間での卒業も可能とします。
- ・通信制の課程では、教員による従来の対面による面接指導（スクーリング）に加え、オンラインによる面接指導や、報告課題（レポート）の電子化を推進するなど、情報通信技術（ICT）を活用した学習環境づくりに取り組みます。
- ・特別支援学校との併設を生かした「共生社会」の学びを取り入れます。

※1 昼間二部制定時制の課程

午前部、午後部の二部からなる多部制定時制高校で、単位制を導入するとともに、2学期制の導入による秋季入学・卒業を可能にし、他部の授業を相互に履修することで3年間での卒業を目指すこともできる。

なお、県内では、現在、午前部、午後部、夜間部からなる三部制定時制高校を松戸南高校、生浜高校、佐倉南高校の3校に設置している。

※2 通信制の課程

「いつでも、どこでも、だれでも学べる学校」として、面接指導（スクーリング）への出席や報告課題（レポート）の提出による学習形態により、自分に合ったペースで学ぶことができる。

Ⅱ 県立高校の適正規模・適正配置

1 全日制高校・定時制高校・通信制高校の配置（統合）

対象高校	使用校舎	実施年度	設置学科	備 考
八千代東 八千代西 (再 掲)	八千代東	10年度	普通科	・ 学びの多様化学校（コース制）を設置 ・ 単位制を導入 ・ 校名については今後検討
船橋豊富 船 橋 北 (再 掲)	船橋豊富	10年度	総合学科	・ 普通科を改編し総合学科を設置 ・ 校名については今後検討
沼 南 沼南高柳 (再 掲)	沼南高柳	10年度	定時制の課程 普通科 通信制の課程 普通科	・ 全日制の課程普通科を改編しフレキシブルスクール（定時制の課程と通信制の課程の併置校）を設置 ・ 校名については今後検討

八千代東・八千代西

【統合校の目指す姿】

- ・ 八千代東高校と八千代西高校を統合し、使用校舎を八千代東高校とします。
- ・ 不登校生徒支援のための学びの多様化学校（コース制）を設置します。また、生徒の学習ニーズに応じた多様な科目を設置する単位制を導入します。
- ・ 誰一人取り残されない学びの保障に向けて、少人数授業の展開やオンライン授業の併用など、多様で柔軟な学習スタイルを確立するとともに、教育相談体制の充実を図ります。

【再編の内容】【教育内容等】

（学びの多様化学校（コース制）の設置は7ページ、単位制の導入は8ページに記載）

船橋豊富・船橋北

【統合校の目指す姿】

- ・船橋豊富高校と船橋北高校を統合し、使用校舎を船橋豊富高校とします。
- ・設置学科は多様な学びを可能とする**総合学科**とし、福祉・情報等、両校の学びを継承するほか、プログラミングやeスポーツ等、特色ある学びを系列に取り入れ、生徒の多様な学習ニーズに対応します。
- ・総合学科の特色を生かし、少人数指導や課題解決型学習を基本とした、多様で特色ある学びの系列を通じて、主体的なキャリア形成意識の醸成を図ります。

【再編の内容】【教育内容等】

(総合学科の設置は6ページに記載)

沼南・沼南高柳

【統合校の目指す姿】

- ・沼南高校と沼南高柳高校を統合し、使用校舎を沼南高柳高校とします。
- ・フレキシブルスクール（定時制の課程と通信制の課程の併置校）を設置するほか、特別支援学校との併設を生かした「共生社会」の学びを取り入れます。
- ・定時制の課程では、午前部、午後部の昼間二部制定時制課程で1日4時限の授業を基本とし、通信制の課程では、オンラインを併用した面接指導（スクーリング）と報告課題（レポート）の電子化を推進します。
- ・県内初のフレキシブルスクールとして多様なニーズに応じた教育課程を編成するなど、個別最適な学びを推進します。また、情報通信技術（ICT）を活用した新しい教育システムの整備を行います。

【再編の内容】【教育内容等】

(フレキシブルスクールの設置は9ページに記載)

2 全日制高校の配置（地域連携協働校の指定）

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
多 古 (再 掲)	9 年度	普通科 園芸科	・ 地域連携協働校の指定 ・ 地域社会に関する学びを導入
市 原 (再 掲)	9 年度	普通科 園芸科	・ 地域連携協働校の指定 ・ 地域社会に関する学びを導入

【指定校の目指す姿】

- ・ 多古高校と市原高校を地域連携協働校※に指定します。
- ・ 近隣校を協力校に指定します。
- ・ 指定校では、協力校と教育課程の共通化による単位認定までを含む遠隔授業を実施します。また、部活動や生徒会活動、学校行事等、協力校と連携した教育活動を展開することで、教育の質を確保し、生徒同士の集団活動により社会性を育みます。
- ・ 高校と地域、企業、高等教育機関などが相互に連携・協働し、地域課題の解決に向けた、探究的・協働的な学びを通じ、生徒の主体性を高め、課題解決力の育成を図ります。

【再編の内容】【教育内容等】

（地域社会に関する学びの導入は 3 ページに記載）

※ 地域連携協働校

高校が離れて点在している地域において、小規模校でも学校を残すことで、生徒の通学への負担を軽減し、学びの場を保障するとともに、学校と地域が連携・協働し、地域ならではの資源を活用した教育活動を展開するため県教育委員会が指定する学校。

地域連携協働校の運営体制については、学校運営を円滑に推進するために、必要に応じて、近隣の高校を協力校に指定するなどし、出張授業や I C T を活用した授業をはじめ、生徒会交流や部活動の合同実施、教職員の研修など、必要な事項について連携、協力を図る、としている。

（令和 4 年 1 0 月策定「県立高校改革推進プラン・第 1 次実施プログラム」）

《参考》 再編後の学校数

課 程	学 区	県立高校数	
		令和7年度	令和10年度
全日制	第1学区	19校	19校
	第2学区	30校	28校
	第3学区	19校	17校
	第4学区	13校	13校
	第5学区	9校	9校
	第6学区	6校	6校
	第7学区	6校	6校
	第8学区	4校	4校
	第9学区	12校	12校
	合 計	118校	114校
定時制		2（14）校	3（14）校
通信制		1校	1〔1〕校
合 計		121校	118校

- ・定時制の県立高校数欄の（ ）は併置であり、全日制の再掲である。
- ・通信制の県立高校数欄の〔 〕は併置であり、定時制の再掲である。